

## 明治期沿岸要塞の砲台立地形式と眺望景観の関係

熊本大学 工学部 学生員 永野謙一 熊本大学 工学部 正員 小林一郎  
 熊本大学 工学部 正員 星野裕司 熊本大学 工学部 学生員 萩原健志

### 1. はじめに

眺望景観に対する一般的な研究には、動きのない静止的なものを対象に構図論的側面から眺望を捉えたものが多い。だが、例えば港湾や海峡の眺めにおいての船の動きは著しく見る人の景観把握に影響を与え、それは構図的側面からの眺望として扱うことは難しい。

筆者らはこれまで、景観を行為の場として捉える軍事要塞を対象に、明治期砲台から得られる眺望について検討を行っており、既存研究では、九州内の下関、長崎、佐世保の3要塞を中心に、主対象である海上における船の活動状況、つまり眺望内の事象に着目し、それら事象の違いにより砲台からの眺望パターンを分類した。

そこで本研究では、以上の砲台から得られる眺望景観に関する知見に加えて、砲台の位置（視点場の位置）に着目し、それらの砲台＝視点場に関する特徴付けを行い、得られた特徴と前述での眺望パターンの両者の関係を考察することを目的とする。

今後は、要塞内における、視点（視点場）対象、又それらを取り巻く地形の3つの間のネットワーク的な相互関係を解明することを課題とし、本研究は、その第一段階として位置付けている。

### 2. 研究の流れ

研究対象となる沿岸要塞は九州内に限定し、下関要塞、佐世保要塞、長崎要塞の3ヶ所における計21砲台について取り扱った。

本研究は以下の手順で行われた。

- (1) 航路の選定（航路点の配置）
- (2) 各航路点から360°画像を作成し砲台の戦闘方式、船側から見た砲台位置の確認。
- (3) DCGソフト「カシミール」

- (3) 別途に戦術的配置による砲台の目的を検討。
- (4) 砲台の戦闘方式、砲台位置、砲台の目的の観点から特徴付けし、得られた特徴と砲台の眺望パターンとの関係を考察。

### 3. 砲台からの眺望（既存研究）

海上を航行する船の動きも多種多様であり、それに応じて景観把握にも変化がみられると考える。

そこで既存研究では、砲台からの眺望を、事象の違い、つまりここでいう艦船の活動状況の違いにより分類を行った。分類の基準には、砲台から見る艦船の視野に収まる時間の長短、また向きの変化する点（変曲点）の数の両者を用いた。表-1に、分類された眺望パターンの型を挙げる。

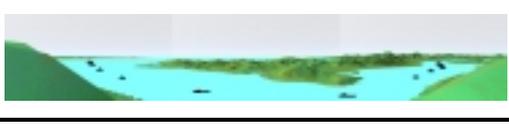
疾走型	
短時間 変曲点ナシ	
擦過型	
長時間 変曲点ナシ	
斜行型	
長時間 変曲点1	
周流型	
長時間 変曲点2	

表-1 眺望パターンの分類

### 4. 砲台の特徴

砲台の特徴付けは、砲台からの眺望と配置との関連性を示すことのできる下記の3項目を取り上げた。

#### (1) 砲台の戦闘方式

砲台の戦闘方式には、戦闘時間の長短から、要撃（短時間戦闘）、砲戦（長時間戦闘）に分けられる。これらは、既存研究における眺望景観内の航路点の数で分類した。

Key Words : 眺望景観、軍事要塞、明治  
 〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号

(2) 砲台位置

当時、砲台を設置する際には、海側からみる陸地景を検討し砲台位置を決定しているものと考えられる。また、海側からみる視体験である「山アテ」での視界の集束行為は、地形に大きく左右されており、砲台位置の選定に際してもそれに起因するところがあるのではと考えた。それを踏まえた上で、砲台位置は山頂、山頂(背後山景)、山腹、岬型の4つに分けることとした。

(3) 戦術的配置による砲台の目的

戦術的配置による砲台の目的は、積極的姿勢で戦いを挑む「攻撃」と、敵の注意を引く「威嚇」の2つがあると考えられる。本研究では、攻撃の砲台の定義として、危険な場所、隠れた場所(航路に近接した点)また、敵を倒す必要のある場所(最後の砦)に配置されると考えた。同様に威嚇の砲台は、敵を観察出来る場所(山頂などの高所)、敵から離れた場所(航路から離れた点)に配置されると考え、「攻撃」、「威嚇」の目的は、砲台位置を選定する際に重要な判断材料になっているものと思われる。戦術的配置による目的の分類を図-1に示す。

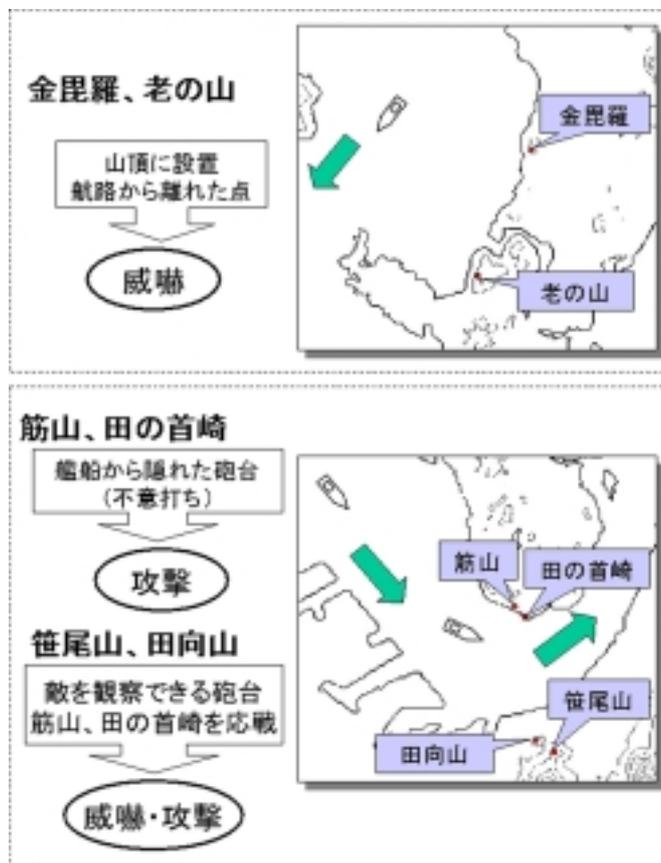


図-1 戦術的配置による目的の分類

5. 考察

前述での砲台の特徴と、既存研究で得られた眺望パターンを比較した。各砲台位置(視点場)についての眺望パターン、戦闘方式、戦術的配置による砲台の目的は表-2のような結果が得られた。砲台の眺望と特徴を表-2に示す。

	砲台	事象からみた眺望パターン	戦闘方式	目的	
岬型	田の首崎	疾走型	要撃	攻撃	
	筋山				
	門司				
	向後崎				
山腹型	神の島低	周流型	砲戦	攻撃 威嚇	
	笹尾山				
	田向山			擦過型	威嚇
山頂型	古城山	斜行型	砲戦	攻撃 威嚇	
	丸出山				
	1,2				
	小首	周流型			
面高					
山頂型 (背後山景)	火の山	斜行型	砲戦	攻撃 威嚇	
	1~4				
	神の島高				周流型
	蔭の尾				擦過型
金比羅					
老の山					

表-2 砲台の眺望と特徴

6. 終わりに

本研究の今後の展開として、戦術に関しては、今後より詳細な検討が必要と思われる。また、各砲台間における眺望の関係、要塞における砲台の配置のつながりなど、要塞内のネットワークを解明することで、既存研究で不十分であった地形と砲台と景観の関係が把握できるのではと考える。

<参考文献>

- ・浄法寺朝見：日本築城史～近代の沿岸築城と要塞、原書房
- ・星野裕司、萩原健志、小林一郎：「明治期沿岸要塞から得られる眺望景観に関する研究」 土木計画学研究講演集 23(2)、2000年11月、土木学会、P.291
- ・竹内昭、佐山二郎：日本の大砲、出版協同社
- ・卯田宗平、笹谷泰之：「船上からの景観認識に関する基礎的研究」 日本都市計画学会学術研究論文集 34、1999、土木学会、P.433